

会長就任のご挨拶



一般社団法人日本鉄道技術協会

会長 宮下 直人

MIYASHITA Naoto

この度、皆様のご推挙により当協会の第十三代会長に就任しました。意志半ばで急逝された故林康雄前々会長ならびに急遽その後を引き継がれ難局を乗り越えられた石橋学前会長のご尽力に改めて敬意を表します。そのご意志を継いで78年の歴史を持つ当協会の鉄道技術の発展・技術者の育成への貢献を高めるべく努力する所存ですので引き続きご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

さて、今年是世界初の鉄道、英ストックトン&ダーリントン鉄道の開業から200年にあたる記念すべき年です。時速300km/hを超える高速列車が各地で運転され、大都市では列車が2分足らずの間隔で一部無人運転されるといった現在の鉄道の姿が200年前に想像できたでしょうか。正に鉄道は人類社会を変えてきたと言えます。これまでの先達の弛まぬ挑戦、発明、努力があって現在に至っていることに思いを馳せるとともに、我々も守りに回らずに常に技術革新を求める姿勢が必要だと強く思います。日本の鉄道技術が世界に貢献した最大のものは「新幹線」であったことは誰もが認めると思います。これはこの最近半世紀における事象であり、次の半世紀で日本から世界に貢献できる技術は何かという視点で日本の進むべき方向を見つめることも大切と考え、私の考えを述べ、ご挨拶としたいと思います。

近未来において、鉄道技術は単なる移動手段に留まらず持続可能性と環境配慮、安全性、そしてDX化による利便性の向上を軸に、新たな価値を提供すべき時代を迎えていると思います。

地球規模での温暖化対策が叫ばれる中、鉄道は環境負荷の非常に少ない輸送システムという特長を社会に一層アピールすべきです。再生可能エネルギーの活用や水素活用に代表される低炭素技術、エネルギー回生などのシステムを統合することで、鉄道はより「グリーンな」社会に貢献できる交通手段へと進化できると思います。また、都市再生との連携や

地方鉄道の維持による社会との調和など、地域の活性化と環境保全を同時に促進する鍵となり得ます。

安全性は、常に技術革新の最前線にあります。自動運転技術やセンサー技術の進化により、衝突や脱線などのリスクを低減させるシステムの整備は不可欠です。さらに、サイバー攻撃に対する防御策含む総合的なリスク管理体制の確立が求められます。将来的にはAIがリアルタイムで運行状況を監視し、異常に対して即座に対応を指示するシステムが、鉄道の安全性を一層強固にするでしょう。

またDX化の波は、鉄道にも大きな変革をもたらすこととなります。IoTセンサーやビッグデータ、AIを活用したシステムは、運行管理やメンテナンスの自動化、安全性の向上に飛躍的な貢献をもたらすはずで、さらには、単一のシステムとしての枠に留まらず、都市全体のモビリティネットワークと密に連携することでその真価を発揮します。例えば、鉄道とバス、シェアサイクル、さらにはMaaSの統合は、生活の利便性を劇的に向上させるでしょう。利用者が一つのアプリケーションでシームレスな移動を実現できる環境整備は、今後の鉄道技術の重要な方向となると思われます。

今後どういった技術が重要になるかという議論を重ねて欲しいと切に思っています。私の若かりし頃、諸先輩は自由闊達に議論し、考えを述べ合うという場面が多々あり、そこから技術の面白さを学んだという経験があります。日本の鉄道技術者の方々にこういった場を提供することも当協会の進めることのひとつと考えております。

今後とも様々な取り組みを通じて、会員の皆様のご支援ご協力を賜り鉄道技術発展ために努力をしたいと思っております。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後に、改めて故林康雄前々会長のご冥福を心からお祈りさせていただきます。